

# 会 議 録

## 1 会議名

令和3年度第1回上越市地産地消推進会議

## 2 議事（公開・非公開の別）

- (1) 会長の選任について（公開）
- (2) 上越市地産地消推進の店認定事業について（公開）
- (3) 令和3年度 地産地消推進事業について（公開）
- (4) 地産地消推進キャンペーンについて（公開）
- (5) 地産地消推進の店プレミアム認定店について（公開）

## 3 開催日時

令和3年8月6日（金）午後2時から午後3時30分

## 4 開催場所

上越市春日謙信交流館 第1会議室

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 出席者氏名（敬称略）

- ・ 委 員：湯沢雅彦、勝島勝美、高橋道代、植村孝弘、小森茂、五十嵐紀文、市村勝彦、  
貝沼武徳、佐藤一、田中美恵子
- ・ 事務局：農林水産部 空部長  
農政課 佐藤課長、高橋副課長、北山係長、中里主事  
農村振興課 戸松係長

## 7 発言の内容

### （1）開会

#### 【事務局：高橋副課長】

- ・ 配布資料の確認
- ・ 上越市地産地消推進の店認定事業実施要綱第13条第9項の規定により、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができないとあり、10人全員が出席しているため、会議の成立を報告。

## (2) 農林水産部長挨拶

### 【事務局：空部長】

- ・地産地消の取組について、消費者の目線では、身近にある新鮮な食べ物をより安価に安心して手に入れることができる。一方、生産者の目線では、消費者と顔を合わせることで生産意欲を高めることにつながり、消費者ニーズに対応して効率よく生産できる。
- ・地域全体で見ても、食材が地域内で消費され地域内で回ることにより、地域の活性化につながり、輸送距離が短いため、環境にも優しいといった様々な利点がある。
- ・こうした観点から市では、上越産品を積極的に取扱う小売店、飲食店などを地産地消推進の店として認定し、認定店が地産地消に取り組むことで地産地消を推進している。
- ・しかし、昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大により、外食需要に影響が出ている。その中において、家庭内消費が増え、更に近年、健康志向の高まりとともに、市民の食への関心も高まってきていることから、地産地消への理解は進んでいるように感じる。
- ・生産の面から農林水産部としては、これまで水稲中心であった農業から園芸の振興、水稲と園芸の複合経営を進めていこうと取り組んでいる。
- ・今後、多くの品目が市内で生産されるようになっていく。そうした生産現場の観点からも、地産地消を推進していきたいと考えている。
- ・本日は、地産地消推進の店認定事業の説明、キャンペーンや（仮称）プレミアム認定店といった新しい取組について委員の皆様からご意見をいただきたい。

## (3) 委嘱状交付

### 【事務局：高橋副課長】

- ・本来、委員一人一人に委嘱状を交付するところだが、時間の都合上、代表して公募市民の田中委員に委嘱状を交付する。なお、田中委員以外の委員へは、委嘱状を席に置かせていただいた。

### 【事務局：空部長】

- ・田中委員へ委嘱状交付

### 【事務局：高橋副課長】

- ・委員の任期は令和3年5月1日から令和5年4月30日までの2年間である。ご協力をお願いしたい。
- ・初めて顔を合わせる委員もいることから、湯沢委員から座席順に一言ずつ自己紹介をお

願いたい。

**【湯沢委員】**

- ・株式会社シャトー・イグレックの代表取締役で、岩の原葡萄園内の「ワイナリーレストラン 金石の音」、市民プラザ内で「リラックス」、その他に妙高市にも店があり、現在合計で飲食店4店舗を経営している。この会議は4年目で、食品衛生協会の高田支部代表として参加している。

**【勝島委員】**

- ・直江津で勝島魚屋をやっている。食品衛生協会の直江津支部の支部長という立場から参加する。

**【高橋委員】**

- ・普段は、「割烹 高はし」にいるが、料理教室をメインに活動している。また、高校の家庭科の授業も見ている。生徒の目線や主婦の目線、飲食店の目線から話をしたい。

**【植村委員】**

- ・JA えちご上越の直売施設課にいる。普段はあるるん畑で勤務しているが、管轄としては、あるるん畑やあるるんの杜、浦川原物産館を担当している。

**【小森委員】**

- ・新印上越青果市場で働いている。委員の皆さんよろしく願いたい。

**【五十嵐委員】**

- ・青果小売商業協同組合の理事として参加する。直江津で八百屋をやっている。

**【市村委員】**

- ・株式会社一印上越魚市場で勤務している。現場というよりは管理業務に従事していることから、消費者目線で意見できればと思う。

**【貝沼委員】**

- ・北本町で「割烹あづまや」を経営している。普段から地場産物は使っており、こうした会議は知っていたが、実際どんな活動をしているか分からなかった。この機会に学びたい。

**【佐藤委員】**

- ・柿崎区で「わすけ」という民宿を経営している。お客様はほとんど県外の方で、地域の食材を扱っているため、お客様にとっても喜ばれている。柿崎は漁港もあるが、大出口泉水という名水があり、最近ではイノシシが有名で、ジビエをやっており、地域食材を使

っているので、地産地消については随分前から興味があった。今回指名いただき大変うれ  
しい。頑張りたい。

**【田中委員】**

- ・市民公募の枠で応募した。スクールソーシャルワーカーとして、上越圏内の小中学校で  
児童・生徒から相談を受けている。その中で、人間の体、子どもたちの体は食べ物で  
できていることを認識し、市から委員募集のお知らせがあった際、地産地消のことを一生  
懸命学んで、子どもたちに返してあげたいと思って応募した。色々教えていただきたい。

**【事務局：高橋副課長】**

- ・事務局である農政課の職員が新たになったことから、事務局職員を紹介する。  
<事務局職員紹介>

**(4) 議事**

**① 会長の選任について（公開）**

**【事務局：高橋副課長】**

- ・本日の会議録は、後日市のホームページで公開されるので、あらかじめご承知おきいた  
だきたい。
- ・次第の「4 議事（1）会長の選任について」、上越市地産地消推進の店認定事業実施  
要綱第13条第5項では、「推進会議に会長を置き、委員の互選により定める」こととな  
っている。会長の選任について、いかがされるか。

**【湯沢委員】**

- ・植村委員を指名。

**【事務局：高橋副課長】**

- ・湯沢委員から推薦いただいた。会長は植村委員ということでよいか。  
<全委員が賛同>

**【事務局：高橋副課長】**

- ・会長は植村委員に決定した。それでは、実施要綱第13条第8項に「会長が議長となる」  
とあるため、植村会長に議長を務めていただきたい。植村会長には、会長席にご移動願  
いたい。  
<植村会長、会長席に移動>

**【植村会長】**

- ・前期から引き続き会長を務めさせていただく。まもなくお盆ということで、にぎわうところだと思う。長期間コロナの影響があり、なかなか厳しい中ではあるが、今日の議題でもある、地産地消推進キャンペーンが推進店への来店につながる取組になればと思う。
- ・本日、各専門分野からご出席いただき、各委員から貴重なご意見をいただきたいと思う。どうぞよろしくお願ひしたい。

**【事務局：高橋副課長】**

- ・それでは、議事に入る。これより先は、上越市地産地消推進の店認定事業実施要綱により、会長に議事運営をお願いする。

**② 上越市地産地消推進の店認定事業について（公開）**

**【植村会長】**

- ・しばらくの間、議長を務めさせていただく。それでは、次第の「4（2）上越市地産地消推進の店認定事業について」事務局から説明願ひたい。

**【事務局：北山係長】**

- ・資料No.1 からNo.3 に基づき説明（説明省略）

**【植村会長】**

- ・今ほど事務局から説明があつたが、各委員からご意見、ご質問等はあるか。

**【全委員】**

- ・意見、質問等なし

**【植村会長】**

- ・各委員には、知り合いの店舗などに地産地消推進の店へ協力いただくよう、声掛け等の協力をお願いしたい。

**③令和3年度 地産地消推進事業について（公開）**

**【植村会長】**

- ・それでは、次第の「4（3）令和3年度 地産地消推進事業について」事務局から説明願ひたい。

**【事務局：北山係長】**

- ・資料No.4、4-1 に基づき説明（説明省略）

**【植村会長】**

- ・今ほど事務局から説明があったが、「地産地消推進キャンペーン」については、後ほど説明を受ける。各委員からご意見、ご質問等はあるか。

**【湯沢委員】**

- ・上越市地産地消推進の店認定事業実施要綱の目的の中に「観光客」と記載がある。観光客に対する事業が資料に無いと思うが、計画等はあるのか。

**【事務局：北山係長】**

- ・観光に特化した事業はこれまでなかったが、地産地消推進キャンペーンが観光客の方にも対応した事業である。去年、一昨年と、8月にキャンペーンを行い、観光客の方からもたくさん応募いただいた。
- ・リーフレットは、観光案内所、ホテル、地産地消推進の店、上越妙高駅の観光案内所に設置し、観光客の方から手に取っていただけるようにした。
- ・今年度も、観光客の方に特化した事業はキャンペーン以外にない。

**【事務局：佐藤課長】**

- ・当市に来ていただいた方に対して、こんなお店があるので、是非来てくださいということで、宿泊施設、観光案内所にキャンペーンのリーフレットを置いてPRしている。これが観光客へのPRにつながると考えている。

**【湯沢委員】**

- ・できれば上越に来る前にPRできればと思う。前にも申し上げたが、現在マラソン大会なども中止になっているが、参加者に上越をPRすることについて、私が体育協会に話をしたら快く受け止めてくれた。県外の参加者の方に、上越市から参加申込書が送られてきても、パンフレットなど何1つ入っていないと言う方がいた。そういうところからPRにつながられたらと思う。

**【事務局：北山係長】**

- ・上越に来られた方がインターネットで検索して調べられるように地産地消推進の店のガイドを市ホームページに載せているが、その他に、ガイドを説明するコンパクトサイズのリーフレットを毎年作っており、観光案内所に置いている。

**【事務局：高橋副課長】**

- ・貴重なご意見なので、イベントを行う課と連携し、是非やっていきたいと思う。

**【植村会長】**

- ・令和3年度事業計画の中にもあった「地産地消推進キャンペーン」について、具体的に事務局から説明願いたい。

**【事務局：北山係長】**

- ・資料No.4-2に基づき説明（説明省略）

**【植村会長】**

- ・今ほど事務局から説明を受けたが、各委員からご意見、ご質問等はあるか。
- ・キャンペーン資料の「8 キャンペーンの実施内容の比較」を見ると、昨年とあまり変わったところはない。新たなどころで言うと、複数店舗を回るような仕掛けがある。

**【湯沢委員】**

- ・飲食店の認定店の中で、季節営業をしているところはどのくらいあるのか。私がやっている「ワイナリーレストラン 金石の音」では、共通商品券が当たっても、共通商品券使用期間に休業するので使えない。ごく少数なら別に問題ないと思うが。

**【事務局：佐藤課長】**

- ・ほとんど通年営業されている。

**【勝島委員】**

- ・私は魚屋なので、リーフレットの表紙を見ると、野菜のイラストが多く、八百屋の方が強いように感じる。

**【事務局：北山係長】**

- ・リーフレットのデザインは毎年変えている。今年は、全ての食材のイラストを取り入れるようにしたい。

**【事務局：高橋副課長】**

- ・デザインは印刷会社にお問い合わせするので、今のご意見を参考にしながら可能な限り対応する。

**【植村会長】**

- ・それでは、キャンペーンはこのような形で進めていくということによいか。
- ・キャンペーンは、市を挙げて取り組むことによって効果が上がる。市民への周知をお願いするとともに、各委員からも協力願いたい。

## ⑤地産地消推進の店プレミアム認定店について（公開）

### 【植村会長】

- ・「(4) 地産地消推進の店プレミアム認定店について」事務局説明を願いたい。

### 【事務局：北山係長】

- ・資料No.5に基づき説明（説明省略）

### 【植村会長】

- ・今ほど事務局から説明を受けたが、各委員からご意見、ご質問等はあるか。

### 【湯沢委員】

- ・事業スケジュールは、今協議をしているのか。

### 【事務局：北山係長】

- ・今年度中には認定基準を固めて、年度末に店舗の募集ができればいいと思っている。

### 【事務局：佐藤課長】

- ・本日の会議では、認定基準等の決定には至らないと思うので、いただいたご意見を基に事務局で再度修正案を作成し、お送りしたいと思う。9月または10月に送付し、皆様からご了承をいただければ、その後に店舗を募集し、次回の会議で認定できれば一番よいと思う。例年だと、次回の会議は2月か3月頃にある。募集期間を経て、その辺りにできればベストだと思っている。

### 【佐藤委員】

- ・私は観光に携わっているが、上越はそれほど資源も無いとなると、お寺などの文化が中心になってくると思う。そうすると、食文化である郷土料理を衰退させるのは絶対だめだと思う。のっぺや押し寿司、色々あるが、やはりせっかく地産地消なので、そうした観点は外すべきではない。
- ・提案としては、すごく全体的によいと思うが、もっとシンプルにした方がいい。ミシュランガイドのように星幾つだとか、口コミサイトでも星5つなど、地産地消の店に認定されることが星1つ、加えて、認定基準の選択項目2つをクリアしたら星2つ、選択項目すべて該当したら星3つといった風にすると、もっと分かりやすいのではないか。

### 【高橋委員】

- ・前回の会議で、店にステッカーなどを色々貼るとごちゃごちゃし、もう貼るところがないという話も出た。



**【湯沢委員】**

- ・現在の A4 サイズの認定証にちょっと付けられる程度のものの方がいいかもしれない。

**【勝島委員】**

- ・プレミアム認定店と普通の地産地消推進の店を区別しすぎることは、どうなのか。  
あまりよく分からない人は、プレミアム認定店は特別な店だから、ただの認定店には行かなくてもいいとなってしまう。

**【佐藤委員】**

- ・それは、案 1 のところに「地産地消推進の店の更なる高みを目指す」と書いてあるので、そこにつながってくるのではないか。地産地消推進の店も成長していかないと、どんどん衰退していくだけで、現在と同じことをしていてもだめだと思う。

**【湯沢委員】**

- ・例えば、居酒屋がこれに応募しようとしたら、最後のお茶漬けに上越産の米を使い、地酒を使うだけでも認定基準に達してしまう。それ以上の取組をしているお店が応募してくるという考え方でよいのか。

**【事務局：北山係長】**

- ・「プレミアム」という名前がよくないかもしれないが、今よりも何かもう 1 つ取り組んでもらいたいという意味で 1 案は作っている。
- ・前回の会議で、今までの認定基準の取組数が多い店が該当するとなると、お店のスタイルとしてプレミアム認定店を目指せない店舗があるというご意見から、「行ったらちょっとよいことがある」「知識が得られる」という全く別の視点で考え、「料理でこの食材を使っている」とか、「今これが美味しくて上越でよく採れる」という説明をしてくれる、店に来たら地産地消に詳しくなれるという内容で、地産地消の取組を「増やす」というよりは、「広める」という視点を 2 案で入れている。

**【勝島委員】**

- ・うちはこの上越野菜を使って、これを作っているということを広めれば、観光客だけじゃなく、市民の方も「作ってみようかな」となり、そういうことが広まれば、より一層よくなると思う。

**【湯沢委員】**

- ・両方ともよく考えていただいて、よい案だと思う。2 つの案を合体させてもいいのではないかとも思う。1 案の認定基準に、マイスターがいるということを入れてしまうのは

どうか。

- ・お客様の中には色々聞いてくる方もいる。当然その会話ができないと困るわけで、それくらいの知識があつて当たり前だと思うので、マイスターは項目に入れてしまえばいい。

#### 【田中委員】

- ・事務局に質問したい。上越市地産地消推進の店の知名度や理解度などのアンケートをとったことはあるのか。ホームページ等で発信していると思うが、みんなで高みを目指していくという以前に、市民の事業への理解や興味、みんなでやろうという意識は、どの程度あるのか知りたい。

#### 【事務局：北山係長】

- ・キャンペーンの際にアンケートをとっており、「地産地消推進の店を知っているか」という質問がある。そこでは、地産地消推進の店という言葉は聞いたことがあり、のぼり旗は見たことがあるという人はいるが、正直あまり認知度は高くない。

#### 【高橋委員】

- ・2案の中身について、私が前の会議で話したことが盛り込まれている。私の感覚では、市民は地産地消に関して知っているようで知らない人が多い。
- ・高校の教科書でも地産地消の取扱いがあり、生徒に聞いてみても、何のことやらという感じである。みんなの近くにあるものを食べればいいという話はするが、親御さんで知らない方も多く、よく分からない四字熟語という感じで受け止めている。
- ・市内の店のポップやのぼり旗を見て、「この四字熟語は聞いたことがあるな」「ちょっと入ってみようかな」くらいの軽い気持ちで市民に広まればよいと思う。その店で「今枝豆ってこうだよ」とか、お客さんが「これ美味しいね」と言ったら産地を教えてくれて、1つの会話をきっかけにマイスターが勧められたらよいと思う。今テレビでも「マイスター」と言ったら何だろうと興味が湧くので、何だろうという小さな疑問から気軽に店に入って、店の人に聞ける環境を整えることから始めていけばよいと思う。
- ・堅苦しいものより全体的にやわらかく、星がついていたり、マイスターがいたりすると、更に詳しく聞ける、といったような、興味を持ってもらえるきっかけづくりが大事だと思う。そのため、マイスターという言葉はよいと思った。
- ・マイスターだからといって、たくさん知識を持っていないといけないわけではなく、ただお客さんと立ち話ができればよいと思う。マイスターの「基準」と資料にあるが、自己申告でよいと思う。私はこれくらい話せる、という自称でもマイスターと言ってよい。

- ・案1と2を一緒にしてもよい。

**【五十嵐委員】**

- ・インスタグラムはやるのか。

**【事務局：北山係長】**

- ・やりたいと思っている。

**【五十嵐委員】**

- ・やったほうがよい。例えば、投稿に「いいね」が一番多かったところに星3つあげるとか。どれだけ一般の人を巻き込んでいけるか。それがないと面白くない。

**【事務局：北山係長】**

- ・お店の料理や食材は、写真が一番その魅力を訴えられると思い、インスタグラムを考えた。

**【五十嵐委員】**

- ・インスタグラムはよいと思う。

**【事務局：高橋副課長】**

- ・紙媒体は年配者には見られるが、若年層にも地産地消推進の店を知ってほしいということからインスタグラムを選んだ。また、市外から来たときに、上越では何がおいしいのか、地元の料理には何があるのかを知りたい時に活用できればと思う。

**【五十嵐委員】**

- ・もう大体何でもスマホでやる。

**【勝島委員】**

- ・あまり堅苦しく考えすぎると、型にはめようとしている感じがしてよくない。

**【高橋委員】**

- ・キャンペーンの参加店舗を募集しなくても、プレミアム認定店がキャンペーンに参加できるという仕組みはどうか。キャンペーン参加店舗は、それだけ自信があってやるのだから、普通のお店より1ランク上で、更にキャンペーンの観点では、その店で商品券が使えたり、商品がもらえたりする。基準を作るより分かりやすい。

**【植村会長】**

- ・事務局は、本日各委員から出た意見を参考に、認定基準や認定特典について検討いただき、改めて地産地消推進会議にお示しいただきたい。
- ・これで議事を終了する。各委員の貴重なご意見は、事務局で今後の事業に反映していた

だきたい。それでは、進行を事務局にお返しする。

## (5) その他

### 【事務局：高橋副課長】

- ・各委員から何か情報提供はあるか。

### 【湯沢委員】

- ・「見る」の「る」、「食べる」の「る」、「遊ぶ」の「ぶ」で「るるぶ」という JTB の旅行雑誌がある。その上越特別版を作って、3月に発行する予定である。そこで、制作の手伝いをしてくれる方を8月9日まで募集している。今のところまだ少し余裕があるので、ホームページで検索していただき、是非応募してほしい。
- ・大体、自治体と JTB が市の予算で制作するところが多いが、今回は、市のお金を使わずに民間のお金だけでやる稀なケースだが、今までも大企業や商店街、大学で制作したり、県内では SAKE まつりで制作したりしたことがある。現在、市議会議員 2 名の応募があり、市職員も一市民として数名応募がある。

## (6) その他

### 【事務局：高橋副課長】

- ・以上で、上越市地産地消推進会議を終了する。次回、例年は3月に開催しているが、プレミアム認定店の関係もあるので、必要となれば皆様にお声掛けすることがあるかもしれない。よろしくお願ひしたい。

## 8 問合せ先

農林水産部農政課                      TEL：025-526-5111（内線 2106）  
E-mail：nousei@city.joetsu.lg.jp

## 9 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。